

喜寿過ぎ元気「道祖会」

奥飛騨の旅で旧交温める

我々は筑中最後の18回生、高校最初の1回生で、回生別同窓会名を「道祖会」という。我々は中学・高校時代を塩原の校舎で過ごし、道祖神社と隣接し、戦後の食糧難時代には神社の鯉で飢えをしのいだ事もあった。いろいろな思い出をくれた道祖神社に因んで会名を「道祖会」とした。

同窓生は平成2年から約20年間にわたり毎年、春の旅行、秋の同窓会を行っているが、今までなかなか紹介する機会がなかった。今回、春の旅行として飛騨高山方面に行つた様子を報告したいと思う。

平成21年4月26日、福岡空港を立ち、名古屋の新穂高ロープウェイ展望台で西穂高岳千石尾根をバックにした一行



大庭君をはじめ、世話人の方々のお陰と感謝している。今回のコースは初日が中部国際空港から中仙道の馬籠宿を見学して下呂温泉泊まり。2日目は高山市内散策から世

界遺産の合掌造りの白川郷を経て、奥飛騨温泉郷泊まり。3日目は新穂高ロープウェイから上高地(河童橋)と残雪の奥飛騨路を満喫した。地酒・飛騨牛・五平餅に舌

鼓をうち、北アルプスの絶景に皆で歓声をあげた楽しい2泊3日の旅であった。帰りに「また来年も元気で来よう」と別れた。(高1 長田健)

子どもの虐待なくせ 小児科医・松本さん尽力

幼児や児童の虐待が増えている。全国児童相談所が対応した昨年度の件数は4万2662件で、前年度比20.3%の増。一貫して増加を続けている。福岡市では342件あった。虐待問題は百年河清を待つほど難しいのか。

育児の不安から起こる親の子どもへの虐待を防ぎ、救う運動を続けようと、大規模な特定非営利活動法人をつくり、取り組む小児科医がいる。昭和23年、中学18回の松本壽通



両親が共働きのため病院の育児室に子どもたちを集めて面倒を見る松本さん

旧制福高から九州大医学部を出た松本さんは、米国の小児病院に留学。帰国後、九州大講師や北九州市立小倉病院小児科部長を経て、昭和45年、西新で小児科医院を開業した。子どもの虐待を知ったのは米国で読んだ論文からで、日本では、まだ問題視されていなかった。ところが18年前、病院に連れて目もつらな2歳の男児が、父親に連れられて来た。

松本さんは、これが動機で少しでも子どもの様子がおかしいと裸にさせる。すると、殴られたり、煙草をつけられた火傷の痕跡があることが多い。一般的に親の虐待は「なつかないのか」とか「泣きやまず腹が立った」疲れて寝れず、叩くと気分が楽になつた」など、身勝手なことばかり。統計によると、女性の40%が、母親になる前に、乳児を抱いて遊ぶなどの体験がな

く、これが育児の不安に繋がっていることが分かった。こうした母親に対して松本さんは、医師は母親の気持ちになつて接する「受容と共感の気持ちが大切だ」という。これまで育児不安の母親をテーマにした論文を多く書いたが、今後も日本医師会で講演するなど、幅広いフィールドワークを描く。(中18 大谷希幸)

OB会をつくらう

ハンドボール部

原稿の依頼を受け、同窓会事務局に保存されている卒業アルバムや、周年記念誌を手に取り、ハンドボール部のルーツを探ると、我がハンドボール部の創部は昭和52年。運動部の中でも、一、二を争う若い部活であることが分かった。

また、若いOBを中心に、時間のあるときには、練習の指導に行くなど、現役生との接点が多いのも部の特徴である。昨年あたりから、OB会結成を望む声を多くのOBから聞く機会が増えた。

これを受けて現在、OB会結成へ向け僅かながらではあるが活動を推進している。もし、この記事を読まれたハンド部OBの方がおられたら、ぜひ、事務局にご連絡いただきたい。

OB会結成という目標と、インターハイ出場という悲願。現役生もOBもまた夢の途中にいる。(高49 前川健太)

盛大にゴルフコンペ

卒業40周年の我々が幹事を務めることになった恒例のゴルフコンペの大きな味方は、同期の渡邊芳之君が、今回の開催地・福岡カンツリークラブの支配人をしていただくことでした。その渡邊君の発案で、

先にスタートした先輩方がなるべく表彰式で待たなくて良いようにセミ・シヨットガン方式を採用しました。好天に恵まれた当日は皆、朝7時に集合。大会を良くしようとして協力したことが全員の心の財産になったと思います。大会は滞りなく進みました。表彰式での賞品を提供して頂いたOBの皆様には心より深く感謝申し上げます。このご協力が無ければ、大会は成功しなかつたでしょう。

最後に、加藤同窓会事務局長の献身的なご配慮にも感謝申し上げます。次の23回生にバトンは渡しました。(実行委員長 高22 江口宏嗣)

在籍6年、我ら光燦会

旧制中から新制高、深い絆

我々筑紫丘高校第3回卒業生は第二次世界大戦(大東亜戦争)末期の昭和20年4月、塩原校舎(現・九大橋キャンパス)に入学しました。当時、福岡市内の県立中学では修猷館、福岡、筑紫(現・筑紫丘高校)が一応、名が通っていました。昭和20年8月の終戦を迎えるまで、まさに一般市民も学生も米英軍の本土侵襲に備えて、目は血走り、中学生(旧制)も竹槍で応戦する覚悟を決めていました。筑中生も豚皮の軍靴、巻脚

半(ゲートル)に、校章(中)の入った戦闘帽をかぶって市内外から通学。学生の運動する急行電車(現・西鉄天神大牟田線)の窓枠にぶら下がったり、連結器にまたがったり、では修猷館、福岡、筑紫(現・筑紫丘高校)が一応、名が通っていました。昭和20年8月の終戦を迎えるまで、まさに一般市民も学生も米英軍の本土侵襲に備えて、目は血走り、中学生(旧制)も竹槍で応戦する覚悟を決めていました。筑中生も豚皮の軍靴、巻脚

あるいはノパンタイヤの自転車に三人乗り、といった具合でした。福岡市内在住者は連日連夜の空襲警報で、とても勉強に打ち込める状況ではなかつたと思います。その年6月19日の福岡大空襲。真つ暗な夜空にサーチライトに浮かぶB29爆撃機からザーツという音とともに降り注ぐ焼夷弾で、福岡市の中心部は火の海と化しました。さて、そうした共通体験をもつ我々は小学校(国民学校)から男女共学の中学(旧制)の三年間、高校(新制)の三年間、当時としては立派な鉄筋コンクリートの校舎で計六年間を共に過ごした学友で、みなさんたちは一味違った絆で結ばれているのです。

毎年、同窓会を開いていますが、平成21年10月20日、西鉄グランドホテルでのそれは「喜寿」の同窓会であり、城戸校長、田中同窓会長にも出席していただきました。六十数人が参集し、楽しいひと時を過ごすことができました。母校の発展は著しく、出身高校を尋ねられても「筑紫丘高校です」と胸を張って言えます。文武両道の精神を遺憾なく発揮し、将来の日本を託すことのできる青年を育てていただきたいと願うものであります。頑張れ！筑紫丘高校。(高3 大庭清美)

この表現が、的確かどうかは分からないが、他の部活動のような、資金面、人材面での基盤が確立されたOB会はないという意味だ。しかし、毎年お盆の頃になると、大学生のOB達が中心となつてOB戦が開かれ、毎年30人近くが集まる。15年以上、途切れることなく受け継がれてきた伝統行事

順位	氏名	備考
優勝	篠塚 武久 (高16)	バスグロ
2	中村 惠昭 (中18)	
3	石内 鉄二 (高21)	
4	岩子 律二 (高16)	
5	南 信子 (高24)	女性バスグロ
6	帆足 邦彦 (高8)	
7	加藤 勉 (高15)	
8	西 秀樹 (高23)	
9	新創 清司 (高8)	
10	林田 公夫 (高16)	

ニアピン No.2 光安 兼則 (高12) No.7 坂本 清親 (高8) No.12 高木 哲夫 (高21) No.16 義紀 (高16) No.18 高木 哲夫 (高21) ドラゴン No.6 四島 英敏 (高15) No.18 高木 哲夫 (高21)



光燦会の喜寿記念同窓会